

岐阜県飛騨市 宮川町種蔵地区の事例



空家住宅を活用した宿泊棟

事業概要

宮川町種蔵地区は、飛騨市のほぼ中央部に位置し集落地内には、小屋裏を養蚕に使った木造三層の古民家と家財道具等を災害から守るべく別棟で建築された板倉や練り石積みが形成された棚田など、魅力ある農村風景が山間部に展開している。

しかし、本地区における課題として、種蔵地区に居住する住民の高齢化や過疎化による「地域遺産の存続」や「固有文化の伝承」の今後のあり方が重要な課題となっている。

そこで、当該地区における農村建築形態を用いた「住宅地区改良事業による空家住宅活用事業」を実施し、空家住宅の再生活用の一環として、平成17年度から平成19年度において、魅力ある地域遺産を活用した地域の活動の拠点となる「体験型宿泊施設」や付随する基盤整備を行うことにより、都市との交流人口の増加並びに飛騨市への定住促進を図りながら、宮川町種蔵地区に残る棚田や板倉と合わせた美しい農村住環境整備を目指すものである。

地区のデータ

- ・ 所在地：岐阜県飛騨市宮川町種蔵
- ・ 事業年度：平成17年度～平成19年度
- ・ 事業費：110（百万円）

・ 事業による地区の改善効果

空家・空倉となった地域遺産を保全活用するとともに、集落内の景観を保全整備することにより、地域文化の結晶としての住環境の持続と対外的イメージアップが図られる。

また、当地区は飛騨市のほぼ中央に位置することから、当該地区の整備により周辺も含めた都市の再生が図られる。

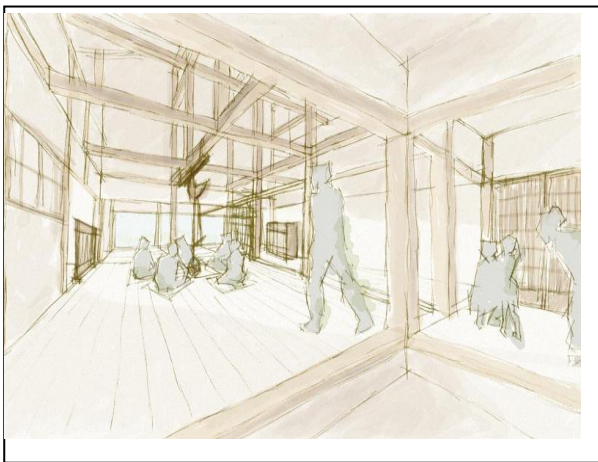
空家住宅及び板倉の状況



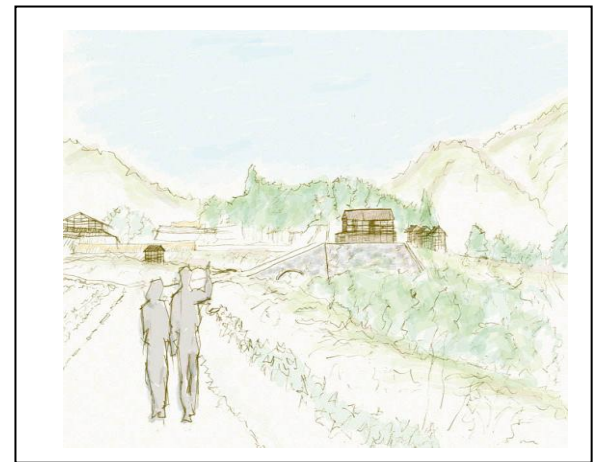
再生活用された「体験宿泊拠点施設」



宿泊施設エントランスイメージ図



種蔵地区整備後イメージ図



平成 13 年度	宮川町種蔵地区景観保全活用構想の策定
平成 17 年度	種蔵整備基本計画の策定及び推進検討委員会の設置
平成 17 年度	種蔵地区の板倉及び空家住宅の買収
平成 18 年 11 月	飛騨市地域住宅計画の認定
平成 19 年度	空家住宅活用による宿泊拠点施設整備
平成 20 年度	宿泊拠点施設の施設供用開始（予定）